

— 素朴表現の絵巻と説話画

# つきしま かるかや



つきしま（築島物語絵巻）室町時代 16世紀〔部分・原寸〕日本民藝館蔵  
松王と法華經一万部を海に沈める光景を見守る浄海（しやうかい・平清盛）

6月11日(火) — 8月18日(日)

## 日本民藝館



絵入本 かるかや 室町時代 16世紀〔部分・原寸〕サントリー美術館蔵  
父を尋ねて高野山奥の院へと向かう石童丸（いしどう丸）

月曜休館（ただし祝日の場合は開館し、翌日休館）／10時—17時（入館は16時30分まで）／入館料・一般1,000円 大高生500円 中小生200円／〒153-0041 東京都目黒区駒場4丁目3番33号／電話番号・03-3467-4527／交通・京王井の頭線駒場東大前駅西口から徒歩7分／西館公開日（旧柳宗悦邸）・会期中の第2水曜、第2土曜、第3水曜、第3土曜日（入館は16時まで）



日本絵画史上、素朴美の極みに達したといえる室町時代の絵巻「つきしま」（築島物語絵巻）と絵入本「かるかや」（サントリ―美術館蔵）。

従来これら室町期の説話画類は、絵画史においてそれほど重視される存在ではありませんでした。当館創設者の柳宗悦（一八八九―一九六二）は、早い時期にこれらに注目した一人です。自ら編集にあたった雑誌『工藝』六十三号（一九三六年）を「つきしま」の特集号とし、「こんなにも無法に幼稚に描かれながら、「まがひもなく美しい」「画境」を持ったものとして、極めて高い評価を与えています。

一方、絵入本「かるかや」は、柳とも親交があった国文学者の横山重（一八九六―一九八〇）により、一九五〇年代に見出されました。荻萱は、刈萱道心とその子石童丸の哀切極まりない物語として知られ、本展出品作は、近世に版本として刊行される以前の、現存最古の絵入本と推定されています。

本展では、素朴絵の極致を示すこの二つの絵画を軸に、お伽草子や記録絵巻、曾我物語屏風などの物語絵、十王図を始めとする仏教説話画など、柳宗悦蒐集による素朴表現の絵画を中心に、館蔵品を一堂に展覧します。

※会期中、展示場面の変更を行います



1. つきしま  
（築島物語絵巻）  
二巻（下巻部分）  
室町時代 十六世紀  
日本民藝館蔵（以下記載なきものは当館蔵）
2. 絵入本 かるかや  
二帖（下巻部分）  
室町時代 十六世紀  
サントリ―美術館蔵
3. 大津絵 長刀弁慶  
一幅 江戸時代  
十七世紀後半―  
十八世紀前半
4. 新當流剣術秘伝書  
一卷（部分）  
江戸時代 一六四四年
5. 浦島絵巻（甲本）  
一卷（部分）  
室町時代 十六世紀
6. 十王図  
四曲一隻のうち第四扇  
江戸時代 十七世紀

日本民藝館 編 つきしま かるかや ―素朴表現の絵巻と説話画  
A4 横版、並製本。「つきしま」「かるかや」全場面と主要出品作を掲載。  
山下裕二氏（明治学院大学教授）、矢島新氏（跡見学園女子大学教授）寄稿。

月曜休館（ただし祝日の場合は開館し、翌日休館）／10時～17時（入館は16時30分まで）／入館料・一般1,000円 大高生500円 中小生200円／〒153-0041 東京都目黒区駒場4丁目3番33号／電話番号・03-3467-4527  
／交通・京王井の頭線駒場東大前駅西口から徒歩7分／西館公開日（旧柳宗悦邸）・会期中の第2水曜、第2土曜、第3水曜、第3土曜日（入館は16時まで）

**日本民藝館** <http://www.mingeikan.or.jp/>

